



# 陶韻クラブ

第18号

## お楽しみ会について

今年度の2月以降に行うお楽しみ会として、3つの提案を考えてみました。

**第1案** 新しい粘土と既存釉薬の組み合わせによる焼き上がりテストピース作成  
昨年変更した新しい粘土について、クラブ員全員がその特性と焼き上がりの色を正確に把握できるようにします。

**第2案** ジャパンデー向け「国際色豊かな型の新規製作」  
子供たちの好奇心を刺激する、新しいキャラクターなどの作成  
古くなったキャラクター型を、子供たちの興味を引くような新しい型に作り替えます。

**第3案** 「化粧土による装飾技法の習得」  
線刻・掻き落とし・刷毛目

といった基本的な技法を、練習用の小作品から始めて身につけ、最後には各自が考えた現代的なデザインの器づくりへ発展させていく内容です。技法の違いや表

現の工夫を比べられるのも楽しいところです。

この3案以外にも提案がありましたら12月末までに出して下さい。

皆さんのご意見をいただきながら、今年度ならではの楽しい企画に仕上げたいければと思います。

## 窯元紹介

萩焼(はぎやき)

焼き物の歴史や知識を不定期に掲載してきましたが、今回からは全国の代表的な焼き物を順に紹介していきます。第1回は「萩焼」です。

萩焼は山口県萩市一帯で作られる陶器で、朝鮮半島の井戸茶碗の影響を受けた作

風から「高麗焼」とも呼ばれます。古くから「一楽二萩三唐津」と言われるように、茶人に親しまれてきた焼き物としてよく知られています。

特徴は、やわらかく素朴な

土味と、高い吸水性です。お茶を注いでも器が熱くなく、また冷めにくいという性質を持っています。陶土や釉薬の組み合わせによって生じる細かなヒビ模様「貫入(かんにゅう)」、そして使い込むほど色合いが変化していく「七化け(ななばけ)」も萩焼ならではの魅力です。

七化けとは、貫入にお茶やお酒の成分が少しずつ染み込み、年月とともに表情が深まっていく現象のことです。使うほどに風合いが育つ器として、長く愛され続けています。

また、萩焼には「割り高台」と呼ばれる独特の高台の形がみられます。一般には淡いピンク色に白釉が流れた作品がイメージされますが、実際には多彩な色調があり、それぞれに味わいがあります。

萩焼は、使うことで価値が増す焼き物。日々手に取るたびに表情の変化を楽しめる、暮らしに寄り添う器です。

(この記事は源吾さんから提供です。)

## ホームページ紹介

クラブでは、活動の様子や年間行事をわかりやすく確認できるように、ホームページを公開しています。掲載されたQRコードを読み取ると、ホームページに直接アクセスできます。



なかでも便利なのが「2025年度の行事から」のページです。今年度の主な行事が一覧で整理されています。「2025年度行事予定」「クラブ新聞はこちら」  
「4月12日

## 今後の予定

ジャパンデー写真」「5月11日 歓迎会・本焼き」「7月27日 研修旅行写真」「8月10日 窯焚き」「9月14日 窯焚き」「9月28日 社協まつり」「11月9日 45周年記念祝賀会」と続きます。各項目をクリックすると、その日の写真や活動報告が見られ、参加できなかった行事の様子も簡単に確認できます。また、「クラブ新聞はこちら」のバックナンバーも同じページから開くことができ、過去の記事を読むことも可能です。

1月	2日(金)	休み
	9日(金)	休み
	16日(金)	制作
	23日(金)	制作
	30日(金)	制作
2月	6日(金)	制作
	13日(金)	制作
	20日(金)	制作
	27日(金)	制作